

平成27年度 個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

通信制の課程に在籍する発達障害等による困難のある生徒の自立と社会参加を図るための新たな指導領域として自立活動の導入、及び他校に在籍する生徒の受講を可能とする通級による指導に類した実践に関する研究開発

2 研究の概要

通信制の課程における発達障害等による困難のある生徒への支援体制の強化及び各高等学校の支援の充実に関して、通信制の課程の特質を適切に活用した支援の研究を進める。

(1) 専門家や関係機関と連携した校内支援体制を確立する。

(2) 特別な教育課程を編成するため、以下の研究を行う。

- ア 高等学校に新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れた「社会とつながる力」を開設し、生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。
- イ 他校に在籍する生徒が「社会とつながる力」を受講できるよう通級指導に類する実践に関する研究を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究開始時の状況と研究の目的

ア 現状

- ・通信制の課程には発達障害等による困難のある生徒が多く在籍している。
- ・発達障害等に起因する不応答により通信制の課程に転編入する生徒も少なくない。
- ・特別支援教育に関する知識・経験の少ない教員の中には対応に悩む場面も多い。

イ 研究目的

- ・通信制の課程に在籍する該当生徒が社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設し、自立活動に類する取組を高校で行う場合の問題点等を洗い出し、生徒への効果について検証する。
- ・他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力」を受講できる仕組みを作る上での問題点を掘り起し、効果的な方法を探る。
- ・専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置による校内支援体制（組織）の在り方や活用方法を探り、有用な組織づくりについて研究する。

(2) 研究仮説

ア 通信制の課程に在籍する該当生徒がコミュニケーション能力、対人関係構築力などの社会生活上必要なスキルを習得するための指導領域「社会とつながる力」を開設する。「社会とつながる力」の受講により、受講生徒の情緒安定に寄与し、他者とのかわり基礎を学び、コミュニケーション能力を高め、障害による学習上・生活上の困難を改善・克服する。

イ 他校に在籍する該当生徒が「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」

を受講できる仕組みをつくり、帰属集団から離れることで生徒の自尊感情や心理的な抵抗感に配慮した通級による指導に類する実践を行う。通信制の課程の特徴を生かす実践（自由度の高い通級指導※）をとおして、障害による学習上・生活上の困難を改善・克服する。また、高等学校における通級指導に関する仕組みを構築する。

ウ 専門家や関係機関との連携や高い専門性を有する教員の配置により、生徒・保護者への教育相談、教員に対する助言や研修を充実し、校内支援体制を強化する。このことを通じて、教員の資質向上を図り、生徒への計画的・組織的指導を可能とする。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
自立活動の内容を取り入れた「社会とつながる力」を開設する。	ソーシャルスキルトレーニング等からなる講座を通して、学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。	前期 32 時間 後期 28 時間 (前期 1 日 4 時間×8 回) (後期 1 日 4 時間×7 回)
他校に在籍する生徒に対し通級による指導に類する実践を行う。	同上	同上

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行学習指導要領における一斉指導の改善工夫等）

- ア 生徒の情報を共有し、面接指導(スクーリング)時等で活用可能とする。
- イ 作成された個別の指導計画に基づき、各教科等にて指導を行う。

(5) 研究成果の評価方法

- ア 「社会とつながる力」が困難の改善・克服等に資する内容であるかについて、当該生徒・保護者・在籍校の教員・指導者等にアンケート調査を実施する。
- イ 通信制の課程における他校からの通級の受入れ体制、他校から通信制の課程への送り出す体制について、関係校から聴取し検証する。
- ウ 専門家や関係機関からなる運営指導委員会を設置し、生徒の社会生活や企業就労に向けた適応力を高める観点からの内容の検討や、通信制の課程を活用した通級による指導に類する実践の成果と課題を検証する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

- ア 新たな指導領域として、自立活動の内容を取り入れたソーシャルスキルトレーニングからなる「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」を面接指導(スクーリング)実施日に開設し、生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行う。
- イ ソーシャルスキルトレーニングは、外部講師と本校教諭によるティームティーチング形式で実施する。
- ウ 参加生徒は、予め講座受講による到達目標を定め、絶対評価による評価を行う。
- エ 講座は本校及び他校の生徒を対象とする。

(2) 全課程の修了認定の要件

- ア 必履修科目の履修及び74単位の科目修得
- イ 卒業レポート(総合学習)の履修
- ウ 特別活動30時間の参加認定

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<p>ア 専門家や関係機関との連携による校内支援体制の構築</p> <p>イ 校内研修等による専門性向上及び専門家や関係機関による教員への支援</p> <p>ウ 実態把握の実施、個別の教育支援計画・指導計画の作成準備</p> <p>エ 実態把握を踏まえた自立活動の内容検討及び教育課程への位置付け</p> <p>オ 「社会とつながる力」の試行的実施</p> <p>カ 他校生徒が「社会とつながる力」を通級により受講可能な仕組の構築</p>
第2年次	<p>ア 専門家や関係機関との連携による生徒、保護者及び教員への支援</p> <p>イ 実態把握を踏まえた個別の教育支援計画・指導計画の作成</p> <p>ウ 試行結果を踏まえた「社会とつながる力」の運営</p> <p>エ 「社会とつながる力」の評価及び単位認定の基準作成</p> <p>オ 県内各高等学校との通級による指導（他校通級）における連携</p> <p>カ 年度途中に希望者が受講できるカリキュラムの検討</p>
第3年次	<p>ア 通信制の課程の特色及び在籍生徒の特徴に対応した校内支援体制の確立</p> <p>イ 「社会とつながる力」の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材の体系化・一般化 ・受講者決定から評価まで手順のシステム化 ・小集団の中で個別指導を効果的に行う方法の検討 <p>ウ 県教育委員会と連携した通級による指導（他校通級）の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級に係る他校連携のシステム化を検討 <p>エ 自立活動、通級による指導等に係る教育課程上の諸課題の解決</p>

(4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<p>ア 校内支援体制の構築等についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態把握の分析結果考察 ・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題 ・校内研修の成果、教員支援の要望 <p>イ 「社会とつながる力」についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な内容、回数、人数等を検証 ・取組の参観 ・感想、意見の聴取 ・受講生徒の困難の改善状況等 <p>ウ 特別な教育課程の設定についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動、通級指導の位置付けを検証
第2年次	<p>ア 校内支援体制の確立等についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援による改善状況確認 ・校内組織の活用及び外部との連携の成果と課題 <p>イ 「社会とつながる力」についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の参観・運営の改善点 ・感想、意見の聴取 ・受講生の困難改善状況等 <p>ウ 特別な教育課程の設定についての評価</p>

	・自立活動、通級指導の位置付けの検証 ・通級指導の成果と課題
第3年次	ア 校内支援体制の確立等についての評価 ・通信制の課程にふさわしい校内支援体制の検証 イ 「社会とつながる力」についての評価 ・指導内容の体系化、シラバス作成 ・受講生徒の困難の改善状況等のまとめ ウ 特別な教育課程設定についての評価 ・自立活動、通級指導の位置付けを検証 ・通級指導の成果と課題

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」は、自立活動の内容のうち、「心理的な安定」、「人間関係の形成」、「コミュニケーション」の区分を特に意識しながら開講した。

他校通級として参加した受講生徒の多くは、講座を受講後、自己肯定感を高め、心理的な安定が得られたように見受けられる。保護者や在籍高校との連携を深める取組により、実施校・在籍校相互の情報交換も密になり、在籍高校での生徒自身の困難さを解消する努力も見受けられ学習状況も向上する姿が見られた。

本校通信制の課程に在籍する自校通級の受講生の多くは、講座を実施する日に同時に行われる面接指導やテストとのスケジュール調整がスムーズに行われず、結果として出席率が低く十分な効果が得られているとは言い難い状況にある。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

ア「社会とつながる力（コミュニケーションスキル講座）」は、①集団における学習の困難さを解消する、②他校の生徒も通級指導する、という目的で実施している。したがって小集団指導を行うことを前提に開講しているが、小集団指導において、個別の指導計画に基づいた個別の支援をいかにして効果的に行うかについては今後も継続して検討する必要がある。

受講生徒の変化のあらわれ等の情報や指導方法について、受講生徒とその保護者、在籍高校の担任・養護教諭・カウンセラー、外部講師、本校教員の情報共有を深めることに心がけ、指導に関して一定の効果は得られているが、全員の受講生に必要な個別の支援を施すには検討・改善すべき事項があり、今後の課題であると考えます。

イ 他校通級の受講生徒と比較して自校通級受講生徒の出席率は低い。これについては、自校通級の受講生徒に関する下記の要因が推察される。

(ア)通信制の課程の生徒にとって、コミュニケーションスキル講座が面接指導及びテストと時間的に重なるため、欠席する機会が多い。

(イ)したがって、講座受講の継続性が失われやすく、受講集団内の生徒同士の関係性（友人関係）構築に支障が生じる。

(ウ)発達障害等の状態に差異があり、個別指導が十分に行き届いていない。

これら自校通級の生徒の指導については、受講生1～2名程度で指導を行い、必要に応じて小集団に戻す等の対処法で一定の効果を得ることができると考えている。また、他校通級の受講生徒に関しても、特定の受講生徒の出席率が極端に低い場合があるが、1～2名程度で一定期間指導したのち、小集団に加える等の対処が望ましいと思われる。いずれにせよ、別集団をつくる必要があるため対処には検討を要する。